令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人やまごや		
事業名	みんなでつくるインクルーシブな庄内地域ワーキンググループ		
助成事業区分	協働助成事業（一般型）【自由提案部門】		
団体の所在市町村	鶴岡市	事業費	519,187 円
		うち助成金額	500,000 円
事業実施期間	令和７年６月 13 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

庄内地域でのインクルーシブな社会づくりを進めるワーキンググループ（ＷＧ）を運営し、障害の社会モデルを軸とした情報共有・研修・連携のネットワークを構築する。そして、各団体の取組みを相互に補完しながら、持続的な地域課題解決モデルを創出することを目的とした。庄内地域では初となる年間プログラムとして実施した。

（実施内容）

◯有識者会議（全２回・オンライン）
・第１回（8/15・４名）：運営全般、アンケート設計、効果測定について協議。第２回（2/18）：アンケート結果を基に実施報告と次年度への助言。
◯連続ワークショップ（全５回・延べ 47 名参加）
・第１回（9/6・庄内産業振興センター・９名）：ＯＴＤワークショップ。ゲーム体験で多様性と無意識の前提に気づく。〔満足度 4.6/5.0〕
・第２回（9/20・荘内銀行タクト鶴岡・８名）：社会モデルの理論学習。「車椅子ユーザーがマジョリティの世界」等でマジョリティ視点を相対化。
・第３回（10/22・オンライン・８名）：課題分析。5W1Hで具体的な解決手法を習得。〔満足度 4.4/5.0〕
・第４回（11/9・にこふる・12 名）：障害平等研修（ＤＥＴ）。障害当事者講師との対話で視点を転換。〔満足度 9.3/10〕
・第５回（12/13・庄内産業振興センター・10 名）：プロジェクト設計（ＰＤＭ）。組織変革に向けたアクションプランを策定。〔満足度 4.9/5.0〕
◯広報：本事業の成果物として事業紹介動画を作成し、ＳＮＳ等で周知した。また、活動が山形新聞に掲載された（令和７年９月 25 日）。



2025年（令和7年）9月25日（木曜日）

多様性尊重 環境つくろ

障害児支援などに取り組む鶴岡市のNPO法人やまごや（平向正裕代表理事）は今月から、互いに多様性を尊重し合える環境づくりに向けた導入プログラムを始めた。参加者は市内を会場に12月まで5回のワークショップを重ね、多角的な視点や考え方を学ぶ。

参加者がゲームを通し、無意識のうちに偏見や格差があることを体感したワークショップ＝鶴岡市・庄内産業振興センター

12月まで5回 多角的視点、考え方学ぶ

きづらさの原因を個人ではなく、環境に求める「社会モデル」の考え方のもと、インクルーシブ（分け隔てない）な環境づくりに取り組んできた。今回はさらに活動を広げようと、初めて年間プログラムとして実施する。市内を中心に庄内地域から会社員や教員など12人が参加し、ゲームや対話を通じて社会モデルへの理解を深める。

第1回が今月上旬、同市の庄内産業振興センターで開かれた。講師を務めた同法人の白幡祐子副代表理事が「違いが認められるだけではなく個性として能力を発揮できるような社会を目指すことが重要だ」と強調。引き続き参加者は4班に分かれ、グループ対抗のゲームを通して無意識のうちに偏見や格差があることを実感した。酒田市中町、高校教諭栗木泰智さん（61）は「さまざまな考えを聞くいい機会になった」と話した。

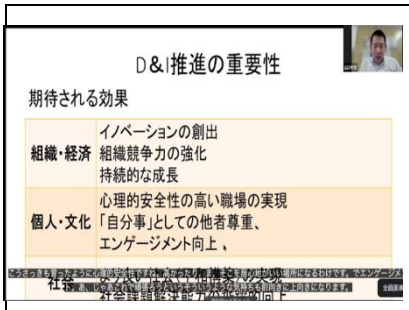
県のやまがた社会貢献基金の助成を受けた。ワークショップは月1回の頻度で開き、事前に申し込めば、各回のみの参加もできる。問い合わせは同法人（0235-25-2021）へ。（真田優美）

▲山形新聞に掲載（令和７年９月 25 日）



①第１回ＷＳ（ＯＴＤワークショップ）

事業の成果	連続ワークショップには延べ 47 名が参加し、全回を通じて極めて高い評価を得た。年間プログラムの平均満足度は 5 点満点中 4.83 で、参加者全員が「満足」以上、83%が「大変満足」、約 8 割が「期待以上」と回答した。事前・事後調査では「障害の原因は本人ではなく街の構造や環境の側にある」という社会モデルの理解が浸透し、街の構造や職場環境への問題意識が明確に向上した（例：街の構造への問題意識が「どちらでもない」から「そう思う」へ）。また「同僚に障害者がいることへの抵抗感」が低下し、「どんな配慮が必要か話し合いたい」という対話意欲が高まった。参加者全員（100%）が「身近な人に勧めたい」と回答し、ＰＤＭ策定など具体的なアクションへの自信につながった。障害の社会モデルを軸とした庄内地域のネットワーク基盤を構築できた。
今後の展望	参加者に教育関係者が多数含まれていたこと、及びアンケートで「子どもたちや教育現場への社会モデルの理解浸透」を望む声が多く上がったことを受け、次年度以降は教育機関への社会モデル普及にリソースを集中させる。テーマ型事業で実施した教育機関への伴走型支援を発展させ、東京大学大学院バリアフリー教育開発研究センター主催の「インクルーシブな学校づくり研究会」と連携して体制を強化する。同研究会との連携を通じて、教育現場での実践例の定期的な活動報告や合同研修を実施し、庄内地域の教育現場における構造的バリアの解消と、インクルーシブな学校づくりのための知見を蓄積・発信していく。



③第３回ＷＳ（オンライン・課題分析）



④第４回ＷＳ（障害平等研修ＤＥＴ）



⑤第５回ＷＳ（プロジェクト設計ＰＤＭ）

団体概要

団体名：特定非営利活動法人やまごや
代表者：代表理事　平向　正包
URL：https://npo-yamagoya.org
ＮＰＯ法人やまごやは、障害の社会モデルに基づくインクルーシブな地域づくりを推進しています。
▶ 事業紹介動画はこちら（YouTube）

事業紹介動画

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	みんなでつくるインクルーシブな庄内地域ワーキンググループ
団体名	特定非営利活動法人やまごや

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	500,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金（やまがた社会貢献基金助成金）
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	19,187	
合計	519,187	

２　支出の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
謝金	60,000	講師謝礼金
旅費		
印刷製本費	175,540	チラシ作成等
消耗品・材料購入費	17,347	コピー用紙、インク代
通信運搬費		
保険料		
使用料	15,800	会場使用料
人件費	150,500	ファシリテーター・事務局人件費
（委託費）	100,000	動画制作費
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	519,187	